

平成7年度企画展

博覧会の風景

— EXPO'70 から25年 —

平成7年4月29日(祝)～5月28日(日)

■開館時間／午前九時三十分～午後五時

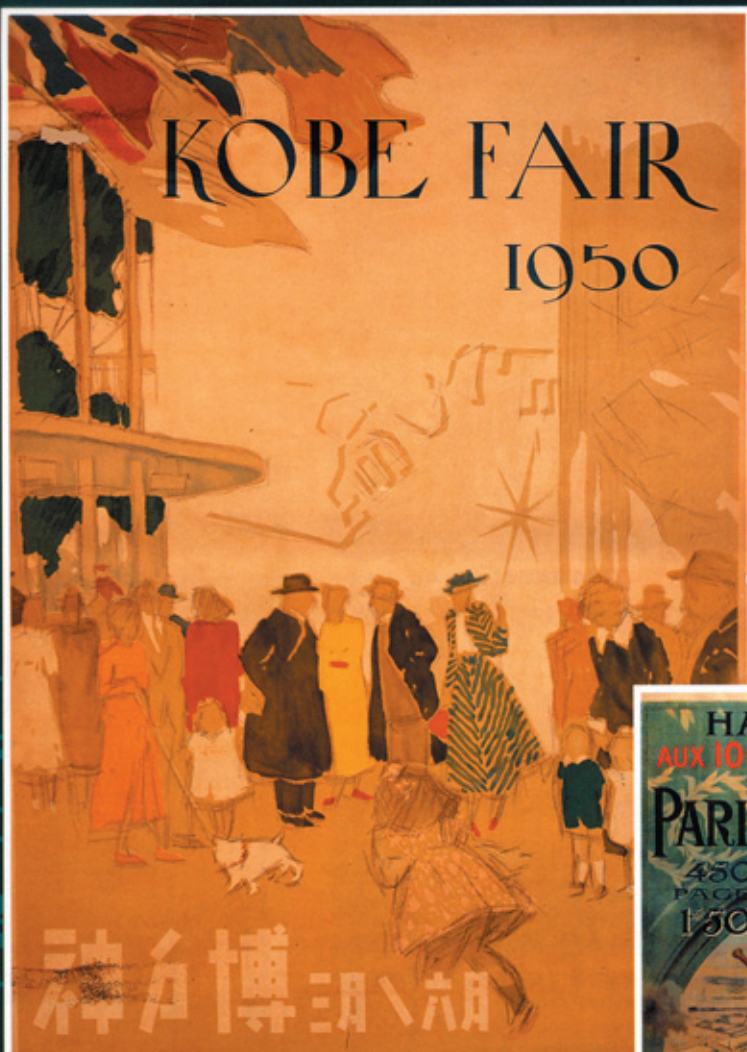
■休館日／月曜日

■観覧料／大人三〇〇円(二四〇円)

高生一五〇円(一四〇円)

小中生五〇円(四〇円)

(内は二〇名以上の団体割引料金)



日本貿易産業博覧会(神戸博)ポスター／小磯良平 画



パリ万国博覧会ガイドブックポスター(京都府立総合資料館所蔵)



〔講演会〕

■五月十四日(日)午後二時 当館講座室

「万国博覧会と群集」

国際日本文化研究センター教授 園田英弘氏

〔展示解説〕

■五月二十一日(日)午後二時 当館特別展示室

吹田市立博物館

大阪府吹田市岸部北4丁目10番1号
電話・06(338)5500

■交通案内

阪急千里線吹田駅から

桃山台駅・山田駅・山ゆきバス(佐井寺北)下車徒歩10分

阪急山田千早中央・摂津ふれあいの里ゆきバス(岸部)下車

徒歩10分

阪急千里線南千里駅から

JR吹田ゆきバス(三宮系統・佐井寺北)下車徒歩10分

JR東海道本線岸部駅下車徒歩20分



東京上野第二勸業博覧会図／周延筆

博覧会の風景

—EXPO'70から25年—

日本万国博覧会が吹田で開催されて四半世紀(25周年)を迎えた今日でも、吹田と万博を結び付けてイメージする人は少なくありません。大阪のベッドタウンとしての吹田市では、千里丘陵の開発や交通網の整備など万博の開催によってさらに都市化が進みました。

万国博覧会は、19世紀西欧で生まれた世界各国の産業振興をはかる展示会で、ロンドン・パリなど当時の先進国の主要都市で開催され、各国の情報を一挙に集められる場としての意義は大きいものでした。日本は1867年(慶応3)のパリ万博に幕府や薩摩藩などが出品したのを皮切りに、1873年(明治6)のウィーン万博には明治新政府が公式参加します。

国内では明治時代初頭から各地で様々な博覧会が開催されるとともに、東京・京都・大阪で5回にわたる内国勸業博覧会も盛んに催され、博覧会ブームとも呼べる状況となります。それぞれの博覧会には、それぞれの開催意図があり、政治状況や時代背景を如実に反映しています。その時代の社会や思想、風俗などが凝縮されて映し出される場所が博覧会であり、その歴史を追うことによって近代日本の歩みをみる事ができると考えます。

この展示では「万国博覧会と日本」「内国勸業博覧会」「時代を映す博覧会」などのテーマごとに、絵画資料(錦絵・刷物)や工芸品、ポスターなどを中心にディスプレイし、博覧会の変遷や当時の風俗を視覚的に印象づけて、近代日本の歴史と博覧会との関係を実感してもらえれば幸いです。



日本産業貿易博覧会(神戸博)ポスター



水晶宮北玄関(京都大学人文科学研究所蔵)
(Tallis's History and Description of the Crystal Palaceより)



ビロード友禅「金地虎の図」
(高島屋史料館蔵)



日本万国博覧会記念グッズ



立物 緞 錦 壁掛試織「日光祭礼」
(川島織物文化館蔵)



上野公園地第三回博覧会行幸之図